

ご意見・ご指摘

①計画の趣旨と市の概要について

②基本構想について

○10年後の将来像として「はじまりの地から未来へ 歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井」が多くの支持を集めたように、桜井市が持つ最大の価値・魅力は「歴史」と「自然」であり、それらの価値と魅力を最大化させる構想にしなければならない。(梅田委員)
⇒基本構想では、桜井市が、古代ヤマト王権発祥の地であり、古墳や遺跡等の歴史資源や豊かな自然に恵まれた「日本の国のはじまりの地」であることを冒頭の将来都市像で掲げ、まちづくりにおいて、それらの豊かな歴史と自然を損なうことなく、最大限に活用することを、将来都市構造や分野の展望で記載しています。

ご意見・ご指摘

③戦略的プロジェクトについて

○基本目標①「魅力的な働く場を創造する戦略的プロジェクト」に、今般のコロナ禍で導入が進んでいる「テレワーク」への取組を検討してはどうか。企業誘致や雇用創出に繋がる可能性が考えられる。(伊藤会長)
 ⇒「まちの将来の姿」に「空き店舗等を活用したサテライトオフィス誘致の推進」の記述を追加しました。
 ○プロジェクトを推進するために人々の連携やつながりを生み出す「コーディネーター」の存在が必要。(梅田委員)
 ⇒行政が一定のリーダーシップをとることで、プロジェクトに関連する地域や事業者を積極的につなげ、官民連携してプロジェクトの推進を図っていきます。

④基本計画について

○地域経営2「情報共有の充実」及び地域経営5「効率的な行財政運営の推進」において、急速なデジタル化に対応するための「デジタルガバメント」の取組を検討してはどうか。(伊藤会長)
 ⇒自治体のデジタル化については、地域経営4「行政経営の適正化」においてAI・RPAの導入について触れているとともに、地域経営5「効率的な行財政運営の推進」では、マイナンバーカードの普及促進についても記載をしています。
 ○1-4「商業の振興」において「キャッシュレス化」への取組を検討してはどうか。(伊藤会長)
 ⇒現時点で市として明記できる取組等はありませんので、「国の動向」欄にキャッシュレス化についての記述を追加しました。
 ○4-1「環境教育・活動の推進」及び4-2「循環型社会の創出」において、SDGSに取り組むことを取組方針に明文化してはどうか。(伊藤会長)
 ⇒基本計画48ページで、各施策とSDGSの17のゴールとの対応表を記載し、各施策において目指すSDGSの目標を明記しています。
 ○1-1「観光の振興」において、新型コロナウイルスの収束が不透明ななか、インバウンドの受け入れについて見直す必要があるのではないか。また、桜井駅周辺地区を活性化させる方策として、駅周辺の整備やJR線の高架化等により、桜井市の表玄関としてふさわしいものにする必要があるのではないか。(林委員)
 ⇒新型コロナウイルスの影響を鑑み、取組方針にあるインバウンドについての記載を一部修正するとともに、国内需要を取り込むための取組方針を追加しました。また、桜井駅周辺を活性化させる方策については、既に取組方針に記載しておりますが、JR線の高架化といったより具体的な方策については、現時点では見通しが立っていないことから、総合計画に記載することはできないものと考えます。

ご意見・ご指摘

⑤その他、総合
計画全般につい
て

○今回のコロナ禍で、消費、教育、福祉などあらゆる分野で大きな変化が生じている。桜井市の将来の姿を考えるうえで、予測困難な将来に対する備えについて言及してもよいのではないか。(伊藤会長)
⇒「計画の趣旨と市の概要」のP9「感染症の世界的流行」で記載しました。
○SDGSに振り回されすぎぬよう、また、今般のコロナ禍を施策不実行の言い訳としないよう、桜井市独自の最適なローカリズムを追及してほしい。(梅田委員)
⇒SDGSの理念を踏まえつつ、桜井市の実情に応じた、また、桜井市ならではの強みを活かしたまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。
○基本計画に記載している内容を実現させるためには、強力なリーダーシップが必要。各分野に責任者を置くとともに、毎年の達成度を検証するシステムを設置してもらいたい。(梅田委員)
⇒基本計画の遂行については、各施策の担当部局を中心に、関連組織とも連携して取り組んでいくこととなります。また、施策の進捗度につきましては、行政内部におけるヒアリングや、外部の有識者で構成されている外部評価委員会による外部評価を毎年実施することにより検証を行い、課題や問題点を洗い出しています。